

ふるさと講座歴史系第2回目を実施しました。

「明治から昭和の交通の要所 奥行地区文化財を巡る」

7月1日（土）参加者13名により、明治から昭和の交通の要所である奥行地区文化財を巡る講座を実施しました。

「史跡旧奥行臼駅通所」では、駅通所の歴史などの解説のほか、現在、史跡整備の一貫として行われている発掘調査現場に入っての見学となりました。礎石及び地業の説明やジャッキアップされている北棟の様子を見ることが出来ました。

「町指定文化財奥行臼駅」、「町指定文化財旧別海村村営軌道風蓮線奥行臼停留所」についても解説を交えながらの見学により、より深く文化財を知ってもらえることが出来ました。



ふるさと講座・特別版を実施しました。

「野付半島ジオツアー」

7月9日（日）参加者13名により、野付半島の成り立ちについて、講話と半島を巡るツアーを実施しました。午前部の講話は、石井正之氏（石井技術士事務所）より「北海道の地質の魅力-北海道自然探検ジオサイト107旅」、七山太氏（国立研究開発法人産業技術総合研究所）からは、現在行っている野付半島の地形・地質調査の成果をもとに半島の成り立ちについてお話を頂きました。

午後の部は、野付半島の特徴的な地質が観察出来る場所に移動し、砂嘴の形状などを解説いただきました。

今までの研究成果で語られてきた野付半島の形成史が、七山氏の調査により、新たな知見が加わるなど参加者から大変好評な講座となりました。



加賀家文書館特別展

リバイバル展

- 日時：8月1日（火）～9月30日（土）
- 場所：加賀家文書館

「江戸時代のノツケを探る

～野付通行屋跡遺跡発掘調査から～

（平成19年度第5回加賀家文書館特別展で実施）（A1サイズパネル14枚）



学芸員のお仕事-その1

～国史跡旧奥行臼駅通所主屋の発掘調査～

6月1日（木）～7月31日（月）の2ヶ月間、史跡旧奥行臼駅通所主屋の発掘調査を実施しました。発掘調査というと町内では、これまでに浜別海遺跡（1970）、尾岱沼7遺跡（1996）、野付通行屋跡遺跡（2003～2006年）床丹1チャシ跡（2014）と古代～近世の遺跡調査が行われてきましたが、旧奥行臼駅通所主屋という近代の遺構を調査する道内でも稀な調査となりました。

現在、旧奥行臼駅通所主屋は、史跡整備事業（所管は教育委員会生涯学習課文化財担当）として、主屋の修理保存工事が行われています。解体し復元作業を行う過程で、地下遺構の調査が必要であり、今年度発掘調査を実施することになりました。

旧奥行臼駅通所は、明治43年（1910）から昭和5年（1930）までの間、人馬継ぎ立てと宿泊、物資の通送等の便宜を図った施設です。主屋は、明治末から大正初期の増築を経て、大正9年（1920）には、客室として2階建ての北棟が増築され、駅通廃止後、駅舎を「山ト旅館」として開業しました。昭和16年（1941）に南棟の増改築、昭和40年頃まで旅館を続け、その後は、商店兼自宅として昭和54年（1979）まで使用されました。

今回調査した部分は、復元作業の中で、コンクリート基礎を入れる部分となりました。範囲は、主屋のほぼ全体にあたりますが、部分的な調査でありました。

町の開拓に欠かせない駅通の調査、結果などは、この後の整理をとおして紹介していきたいと思えます。



別海町郷土資料館だより No.217

発行日 平成29年8月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802（FAX兼）

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

2ヶ月間の発掘調査が無事終わりほっとしています。上の写真にもあるように、建物の一部は、ジャッキアップされ、その下を発掘するというなかなか経験出来ない調査となりました。（石渡）